

昨年2月逝去された「上村文男先生の追悼の集い」のあと、開催しました2024年度第29回総会（5/18）において、新たに代表幹事を引き受けて頂きました高谷さんから、戦後80年企画「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」を提案して頂きました。

総会でご検討し予算面等の諸課題はありますが、熊本空襲の実相解明、会発展等の視点からも積極的に関わっていきます。

7月1日「第16回熊本空襲を語り継ぐ集い」から取り組みを始めました。（昨年7/25のニュース323号にて報告掲載）遅くなりましたが本ニュースで、取り組み概要等を数回にわたり報告してまいります。よろしくお願いいたします。

報告

戦後80年企画「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」 その1

高谷 和生

1 「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」の趣旨

戦後79年をむかえ、太平洋戦争期の記憶は、次第に消え去りつつあります。熊本空襲に関しても、関わる戦時体験者は減少し、一方ではその膨大な証言等は未整理のまま蓄積されますが、これも記憶とともに忘れさられようとしています。

本プロジェクトでは、これらの未整理の資料等を、再度構築しなおすとともに、体験者の新たな記憶を呼びさまし、次代に継承する事業として「空襲写真のカラー化事業 記憶の解凍！」他3事業に取り組むものです。

写真カラー化の先行事例として、新潟県長岡市（長岡市空襲資料館）では、東京大学渡邊教授及び新潟日報社と共同で、戦前から戦後復興期までの白黒写真をAI画像認識と空襲体験者等からの聞き取りによりカラー化する「空襲から復興」事業を展開しています。

本事業では関係諸機関等と連携して、戦後80年に向けて「熊本空襲の記憶」を次代に継承していきたいと考えています。なお、ここで使用する「記憶の解凍」という言葉は、東京大学渡邊英徳教授による提言です。詳しい内容は、庭田杏珠・渡邊英徳著『AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』光文社新書、2020年刊行本にありますので、図書館等で是非ご覧ください。

2 プロジェクトの概要

（1）空襲写真のカラー化事業「記憶の解凍！」

作業対象は、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク様の承諾のうえ、所蔵される米軍撮影「熊本空襲白黒写真20枚」を予定しています。同会刊行の平和継承リーフレット『空襲下の熊本』及び『M76焼夷弾と熊本空襲』を参照ください。

そのうち第一弾は「4枚」で年度内の完成をめざしています。写真の概要は①A：白川左岸世安町の月星化成分工場へのナパーム弾投下。軽爆撃機による機上からの撮影写真です。②B：市街地の白川流域である迎町等への空襲写真です。写真には河原町電停と停車退避の熊本市電二両が写っています。軽爆撃機による機上からの撮影写真です。③C：花畑町・桜町への空襲で、熊本市公会堂と7月1日深夜の第一回熊本大空襲被災の市街地が写っています。これも軽爆撃機による機上からの撮影写真です。④D：川尻町から富合を抜け宇土方面への国道3号自動車橋への攻撃写真で、これは戦果確認用「ガンカメラ」写真です。

全国で米軍空襲写真に特化したカラー化事業は僅少ですので、熊日新聞社6月30日第一面報道にあるように、熊本県内で注目される取り組みとなりました。

また、熊本市では例年「熊本大空襲 平和啓発パネル展」を夏期に開催していますが、今年度は「5項 当時のモノクロ写真をA1でカラー化」で、当時の「焼け跡での昼食」「熊本大空襲の罹災証明書発行風景」等8枚をパネルで示されています。ただ、ただカラー化した熊日サービス担当者からの説明では、A1自動色づけのみで、時代考証は行なわれていません。「8項 富合町杉島空襲」写真も、本会作業写真④Dとは色目も随分と異なります。

以下、本作業の流れと到達点、啓発の姿を述べます。

- ① ウェブデザイナーさん等による「フォトショップA I画像認識」による自動色付け。
- ②作成した基礎資料を、「活かす会」に等の「戦争・空襲体験者」による細部の色補正・再現、写真に関わる証言の収集、非体験世代とともにワークショップ「記憶の解凍」による共同作業。
- ③併行し、「くまもと戦跡ネットとの連携調査」による、16ミリカラー映像・スライド写真・ガンカメラ映像、各種刊行物等による客観資料を基とする歴史検証作業。
- ④カラー化された写真の「記憶の再現」関わる新たな「空襲ストーリー」作成。

これら、完成したA1カラー化写真は、県内諸学校や職域団体等へ、貸出しや展示等を予定しています。ただ、課題として次の事柄等があるます。「空襲写真カラー化での作業上の課題や特徴がある」「旧来の低解像度写真ではカラー化不鮮明」「軍カメラ特性」「対象物となる複雑な被写体・構造物・町並み等は、A I処理では不鮮明」となりやすい。

今後、本格稼働での予算化や作業者の確保他の課題もあります。ただ、この資料のほか、対象として長崎平和推進協会所蔵資料（約200点）」等もありますので、さらにカラー化資料を増やし、進駐軍の接收様子等へも広げることが可能かもしれません。

□熊本空襲のカラー化事業



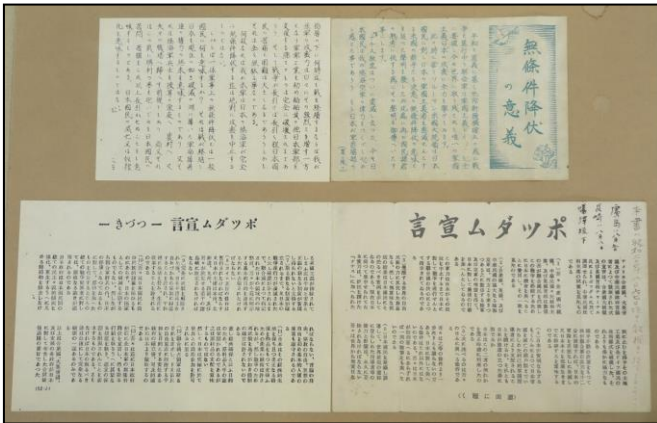
左：A I当初認識写真

中：オリジナル白黒

右：手作業色補正写真

(2) 空襲資料の新収集事業「現物が語る記憶！」

ここでは、1945年7月1日「第一回熊本大空襲」での「焼夷弾（現在確認出来ていないE46集束焼夷弾の部品、照明弾、更なるM69小型焼夷弾）に関する証言と現物等の収集作業を想定しています。また、1945年7月～8月に熊本、宇土・松橋、菊池、玉名地方等へ投下された紙の爆弾「伝単」に関する証言、新たな伝単現物の発見、投下時に伝単を容器していた通称「伝単爆弾」等の証言収集集めも行ないます。さらに、熊本県内ではあまり知られていない1938年5月20日人吉・球磨・芦北地域への中華民国軍機による「伝単」投下に関する証言、新たな現物等の収集作業も検討しています。会での各種活動、展示会等を通し、皆さま方から県民への働きかけをお願いします。



□熊本空襲で投下された「伝単二種」熊日蔵



□E46集束焼夷弾と各種焼夷弾 岡山空襲資料館蔵

(3) 熊本県内での日本側全空襲のデータベース化事業「記憶の記録・集約！」

これまで本会で発行した刊行物『戦後75年熊本空襲を語り継ぐ』、熊日『伝えたい私の戦争』、刊行されている市町村誌から空襲証言等を抜粋してデータベースで集約します。

また、併せて「熊本空襲戦没者データベース化」も活かす会事務局で作業を進めていきます。

(4) 熊本県内各地への米軍側空襲記録のデータベース化「新資料の調査・集約！」

これまで九州内の空襲調査に取り組まれている「空襲・戦跡九州ネットワーク」での米軍資料集約作業を参照して、今後はデータベース化に取り組めます。また、先進事例として「静岡平和資料センター」を中心に取り組まれている静岡空襲データベース作業を参照として、日本側と米軍側証言の一致化についても検討していきます。

(前ページから続く)

月日	目標	攻撃部隊	時刻	機種	機数	高度 (F)	爆弾の種類と量	備考
7月5日	大村観空基地	第7航空軍 第47戦隊	13:20-13:21	B-25	12	7000	100F M47A2B136発8"	南九州上陸作戦に備えて、空域での機位作を確保するため九州の飛行場に対する本格的な攻撃が開始された。大村観空基地の分散秘匿地区に駐機する飛行機に対して焼夷爆弾や機銃掃射による焼夷弾が使用された。
		第48戦隊		B-25	12	7800	100F M47A2B142発9"	
		第864戦隊	11:16-11:09	B-24	12	10000	125F M1A2FC480発28"	
		第865戦隊	13:20-13:25	B-24	11	9400	125F M1A2FC440発26"	
		第866戦隊	13:04-13:24	B-24	11	8400	125F M1A2FC410発24"	
		第867戦隊	13:20-13:22	B-24	12	9100	125F M1A2FC480発28"	
7月9日	大村観空基地	第7航空軍 第19戦隊	13:10-13:20	P-47	8	9000	5F R428発 機銃掃射 (4320発)	防空砲台に対してロケット弾で攻撃、機銃掃射も行った。
		第34戦闘機群	13:07	P-47	16		R4156発 機銃掃射 (8795発)	
7月30日	大村観空基地	第7航空軍 第318戦闘機群	11:59-12:00	B-24	8	9250	100F M30GP120発6" 125F M1A2FC196発12"	18機は東、12機は南、11機は北の分散秘匿地区を攻撃、2機は宿務区域を攻撃した。
		第864戦隊		B-24	8	10000		
		第865戦隊	11:55	B-24	12	9500	125F M1A2FC476発28"	
		第866戦隊	11:56	B-24	12	9000	125F M1A2FC480発28"	
7月30日	大村観空基地	第7航空軍 第41爆撃機群	10:45-11:10	P-47	14	12000	500F M64CP14発4"	主任務 (A-26の護衛) のため、機銃掃射など攻撃。
		第333戦隊		P-47	15	8000	500F M64CP4"	
		第48戦隊		B-25	9	10000	125F M1A1FC108発6"	
		第396戦隊	11:00	B-25	9	9000	125F M1A1FC108発6"	
		第820戦隊		B-25	9	8000	125F M1A1FC108発5"	
		第437戦隊		A-26	7	200	M41F504発5"	
7月30日	大村観空基地	第7航空軍 第319爆撃機群	10:45-11:10	A-26	8	9500	20F M41F6"	日間に到達した35機のうち31機が大村に投降
		第438戦隊		A-26	8	9500	20F M41F6"	
		第439戦隊		A-26	12	11500	20F M41F6"	
		第440戦隊		A-26	8	8	20F M41F6"	

※爆弾の種類 CP: 通常爆弾 IB: 焼夷弾 IC: 集束焼夷弾 Fr: 焼夷爆弾 FC: 焼夷集束弾 Rk: ロケット弾

上の表は、アメリカの戦略爆撃調査部が戦後にまとめたB-29部隊、をともに、B-29部隊の作戦任務報告書や戦略爆撃隊の戦報報告書などによって日付などの誤りを修正したものです。
 なお、B-29部隊の統計資料のまともなものは、第20航空軍 Attack Data 統計グループ (12人) の成果を活用しました。機東航空軍の資料は、岡山学院大学経済学部林博士氏提供のものを一部採用しています。
 作業参加者: 外田洋、瀧田祐樹、工藤洋三、永益宗孝

□大村空襲での米軍空襲記録一覧 (2022年)

3 事業の展開と連携等

これらの取り組みは「戦後80年節年事業」での、県内報道各社様との連携、行政機関・他団体との連携等の共同作業ができるかの模索を進めたいと思います。